



「ピースあいち」憲法週間特別企画 戦争のない世界ってつくれるヨ マンガで見る、考える、憲法9条 一橋本勝作品展 4月23日(火)～5月25日(土)

安倍政権下、憲法改正の危機が迫る今年、5月の特別企画は「ぜひ憲法をテーマにしたい」との「ピースあいち」一同の思いが結実しました。『デイズジャパン』などにイラストなどを描かれている漫画家・橋本勝さんの協力を得て、わかりやすいマンガで、憲法9条を考える企画です。

9条の条文をそのまま20枚の美しい絵にした『21世紀の世界に9条はおすすめ』と2冊のマンガ『戦争のない世界ってつくれるヨ』『核も戦争もイヤなものイヤ だから憲法がスキ』が、期間をとおして3

階で展示されます。また、週替わり展示として、2階プチギャラリーにはマンガ『憲法』『21世紀の出来事から戦争と平和を考える』『映画から戦争と平和を考える』の原画を展示します。



5月6日(日・祝)のピースまつり(2ページ)では、橋本さんご本人による絵本の読み聞かせ(11時30分～、14時～)もあります。

これまでにない斬新な企画展です。どうぞご期待ください。

2013年3月イベント連続企画 福島原発事故から2年 忘れないフクシマ

主催:ピースあいち
飯舘村写真展実行委員会
協力:チェルノブイリ救援・中部

◆「写真展飯舘村」3月9日(土)～3月23日(土) ◆「写真展チェルノブイリ」3月26日(火)～3月30日(土)

2011年の3月に発生した「東日本大震災」と「福島第一原子力発電所」の事故は、日本人全体を“見えない恐怖と不安”に落とし入れました。とくに、福島に住む人たちの“恐怖と不安”は、事故発生から2年を過ぎても何も変わっていません。



その後の全国民あがての脱原発の行動にもかかわらず、昨年末の総選挙では原発維持を唱える自民党が圧勝し、福島原発事故は忘れ去られようとしています。だからこそ今、脱原発の活動を燎原の火のごとく再び全国に広げたいとの思いで企画しました。

飯舘村は原発事故発生から約1カ月後に全村民6,200名が避難を強いられ、昨年5月には避難指示解除準備地域、居住制限地域、帰還困難地域と3地域に分割され、今なお、村民の不安と苦悩は続いています。この飯舘村の酪農家・長谷川健一

さんが、2年間にわたって撮影し続けてきた1万枚の写真の中から50枚が展示され、その写真集も販売、利益金の一部をカンパしました。

福島原発事故を考えると、事故の重大性を示す「評価尺度」が同じ「レベル7」であった「チェルノブイリ原発事故」を思い出さずにはられません。そこで、「チェルノブイリ原発事故」の写真展も是非ということになり、「チェルノブイリ救援・中部」の協力を得て、彼らの活動の写真等を連続して展示することになりました。

「ピースあいち」の活動を劇化、この夏に上演 —平和の架け橋「ピースあいち物語」—

「ピースあいち」の活動が、「平演会」という演劇グループの手によって劇化され、この夏、8月24日(土)、25日(日)、千種文化小劇場で上演される。このグループは、毎年、今日的な課題をテーマとした芝居を舞台に乗せてきて30年になる。

台本は「劇団名芸」を主宰する演出家の栗木英章さんで、「ピースあいち」の運動の歴史をたどり、平和の尊さを訴え、今後の展望を示すものになっている。

この舞台は、地元ケーブルテレビが「ピースあいち」の歴史を取り上げ、その進展をタテ糸に、そしてそれを見守る家族の葛藤をヨコ糸にして織り上げた物語である。

鈴木家の祖父吾一は中国戦線での加害体験をトラウマに持ち、戦後、苦悩を秘して生きている。主(息子)陽平の妻明子は平和関係のメディア記者として「ピースあいち」の発端の頃取材してきたが、事故にあい無念のリタイアをして、今はその娘の志保がケーブルテレビのリポーターとして「ピースあいち」の関係者へインタビューする立場になって出演するにいたった。番組を見守る鈴木家へ長男の嫁利恵が子どもを連れて訪れ、賑やかになるが、吾一は奥に引っ込んでしまう。そこへ会社帰りの長男英夫が来て、福島へ急に出張になったと告げる。英夫は原発関係の技術者で事故の再調査に向かうというのだ。それが原発の海外輸出のための下準備と知り利恵たちは反対するが、生活の確保を見すえてかみ合わない。

そんななか、テレビでは20年近く前、戦時の遺品を残して亡くなった人の遺族らが、その遺品を常時展示する施設の建設を願う場面が演じられる。戦時体験を持つ高齢の男性は、行政の手で設立してほしいと県・市に要望する。市の窓口担当はこうした声に理解を示すが、その上司は「財政的に余裕がない」と突っぱねる。

平和と憲法擁護を訴えてきた野口弁護士らは多くの声を受けとめて行政に平和資料館を設立させようという運動を立ち上げ、熱い思いの議論を続けてい

た。そして、「平和のための戦争資料館展」を企画し開催する。この展示会の最中、一人の篤志家が現われる。高齢の佐藤たきだ。建設用地と建設資金を提供するという申し出だった。この話をさっそく県・市に持ち込むが、結果「受け入れ困難だ」と断われ、ついに自分たちの手で設立することになった。

ラストシーンの語り部に吾一の戦友だった山田が登場、自らの戦争体験を告白して、吾一たちに「沈黙はやめて、平和憲法の危機である今こそ、我々の体験を語ろうではないか」と呼びかける。吾一は煩悶するが、やがて山田との話を通じて同意していく。

それらの姿を見て福島へ向かった英夫は、現地の惨状に家族を呼び寄せる。

原発は核戦争につながる危険な道であることに思いを馳せ、やがて関係したすべての人々の平和を願う歌声が会場に響き渡る。

「愛知・県民の手による平和を願う演劇の会(平演会)」プロフィール

1982年に実行委員会形式で花岡事件を扱った「勲章の川」を上演したことがきっかけで誕生。1984年に、平演会として発足。「①演劇公演を通じて平和の問題を広く市民に訴える ②平和教育・平和運動の発展 ③地域の文化運動の発展」を目的として活動しています。

それ以来、毎年8月に平和の大切さを訴える演劇を市民参加で上演してきました。毎回参加者を募り、学生、フリーター、主婦、会社員、年金生活者とさまざまな人が参加しています。

◆「開館6周年 ピースまつり2013」開催 入場無料 5月6日(月・祝) 10時30分~16時

感謝の思いを込めて、今年も「ピースまつり」を開催します。当日は、開催中の『橋本勝作品展』で橋本勝さんご自身による絵本読み聞かせも開催します。

絵本読み聞かせ(11時30分~、14時~)・バザー・カフェ・平和こま・フェアトレード品販売・手打ち讃岐うどん店・AHI ショップ・おもちゃ病院・平和団体活動紹介コーナー

◆夏休み企画 「はだしのゲン」原画展 8月(予定)



「はだしのゲン」は、広島県出身で昨年12月に亡くなった中沢啓治氏による、自身の原爆の被爆体験を元にした漫画です。戦中戦後を必死に生き抜く主人公中岡ゲンの姿が描かれ、国内外で高い評価を得ています。

その漫画と絵本の原画を広島平和記念資料館からお借りして展示し、当時の時代背景や世相風俗、原爆の惨禍などを紹介します。ご期待ください。企画の詳細は現在調整中です。

■「戦争を語り継ぐ15人の想い」パネル展

2月27日(水)～3月20日(水)

名古屋学芸大学の卒業制作展が今年の1月8日から14日まで、愛知県美術館で開催された。メディア造形学部4年生の堀田ふみ香さんは、戦時を語る「語り部」をテーマに取り上げた。

原爆の被爆体験をはじめ、戦地での体験や国内での戦時、疎開体験をもつ15人の方々取材、苛酷な体験と平和への熱い想いを聞き取り、それを文章化し写真とともに展示した。これらを「ピースあいち」でも展示することにしたものである。

堀田さんは、映像メディア学科写真ゼミのメンバーだけあって、カメラの撮影技術は確かなもの。「語り部」らは、いずれもいい表情で撮れていた。この展示は日刊新聞でも紹介されたが、若い人がこうした取り組みをされることは、「ピースあいち」にとって心強い限りである。



■戦争資料の寄贈

百聞は一見にしかず、物ほど戦争のいろいろな側面を見せてくれるものはありません。戦争の愚かさを教えてくれています。

当館は設立以来5年間、皆様の思いがこもった貴重な品々を多数寄贈していただいておりますが、戦争を知っている世代が年々減少しており、残しておきたい貴重な物が散逸することが危惧されています。

当館には、名古屋空襲で屋根・天井を貫いた焼夷弾による火災を必死で消し止めて残った天井、津の空襲で爆弾の破片が貫通した書籍等々、多くの貴重な戦争遺産が寄贈されています。

後世に残していきたい物がありましたら、ぜひ当館への寄贈のご協力をお願いします。(資料班)



■関ヶ原～近江八幡

—滋賀県平和祈念館を訪ねて

10月8日(体育の日)、「ピースあいち」の戦跡ツアーに行きました。行き先は関ヶ原火薬庫跡・近江八幡・滋賀県平和祈念館です。



関ヶ原火薬庫跡に残る立哨台

秋晴れのなか出発したバスは、まず関ヶ原火薬庫へ。ここは明治末期から大正はじめにかけてつくられたもので、現在では、洞窟式火薬庫、正門、立哨台などが残っています。小さな立哨台に入ってみたり、懐中電灯で照らしながら火薬庫へ入ってみたりして、当時を思い、こんなものの必要のない時代が続くようにと、思いを新たにしました。

次は、お楽しみ、ツアーのメイン(?)の近江八幡。豪華近江牛ランチと町並散策です。道路が混んでいたの、時間が少なめでしたが、ランチは大満足、近江八幡のしっとりした町並を散策しました。

最後は滋賀県平和祈念館です。ここでは、ボランティア、スタッフさんとの交流の時間もあり、案内をしていただき広い館内を見て回りました。戦争の悲惨さや平和の尊さを知る、感じる、考える、深めるように工夫され、平和を願う心を育てる拠点です。

戦跡を巡るだけでなく、お楽しみもセットされていて、しっかり学び、楽しめるツアーでした。

◆映画上映会(映像による学習会)

毎月第2土曜日 午後4時半開始：参加無料

10月13日 「東京原発」(2003年制作)

11月10日 「イノセント・ボイス」(2004年制作)

12月8日 「靖国 YASUKUNI」(2007年制作)

1月12日 「ボクちゃんの戦場」(1985年制作)

2月9日 「キクとイサム」(1959年制作)

●スタッフから

11月に上映した「イノセント・ボイス」は、1980年代のエルサルバドル内戦に駆り出された「12歳・少年兵」であった監督が、彼の体験を映画化したものです。現在も世界20数カ国で25万人の少年兵が戦争に駆り出されています。「現代の戦争と平和」を問うにふさわしい映画でした。

次回:2013年5月11日(土)「映画 日本国憲法」ぜひ、ご覧ください。

「ピースあいち」の平和運動に参加して

平和への絆を求めて—ボランティアの想いを伝える

「ピースあいち」には90名近くのスタッフとボランティアがいて、当番や展示会等のさまざまな仕事をやっています。ボランティアがどのような平和への想いで「ピースあいち」に関わってきたかを、「ピースあいち」メールマガジンの『ボランティア雑感』から取り出してみました。文章は短くしてあるところもあります。

*「ピースあいち」メールマガジンの配信ご希望の方は、「ピースあいち」ホームページからお申込みください。<http://peace-aichi.com/>

ボランティア同志の絆

中西 照美

私は「ピースあいち」の企画段階からいろいろな話を聞いて、とても良い考えに賛同し、設立と同時に友人とともにボランティアに参加させていただきました。

ボランティアに参加して良かったことは数多くあります。まず、ボランティアに参加している方々と絆が生まれるということです。これまでにいろいろな社会で活動をされてきた方々が「ピースあいち」という名のもとに協力する素晴らしさです。

次は「ピースあいち」を訪れる方々の熱心さに感動します。学生、一般の方々が真剣に見学される姿を拝見し、とても嬉しくなります。

また、展示されている数多くの品々をじっくり見、体験談を聞かせていただいて、想像以上に戦争というものを感じることができました。「ピースあいち」の名が物語っているように、この世の中から「戦争」が無くなることを望みます。(Vol. 19)

「いつか来た道」を繰り返さない

井戸 早苗



〈ボランティア5年は、あっという間だ〉

暑い夏が来る時、私の胸も熱い思いがこみ上げてきます。なぜ、約300万人の日本人、アジア・太平洋地域の約2000万人が「戦争」という国の政策のために生命を落さねばならなかったのか、なぜ15年も戦争を続けて泥沼に入ってしまったのか。

もう、戦争は絶対いやだ…。幼児期から小学1年時に受けた恐怖の戦争体験、暴力のない平和な社会を一番に願って生きてきました。でも自分の生きている間にまた、「いつか来た道」を感じる昨今、何かじっとしてられないのです。

〈いろいろな方々のとの出会いと別れ〉

同じ曜日のボランティア班で、ニューギニア、満州へ出兵された方々から、直接お話が聞けたこと、これは貴重な財産です。

兵隊にとられて3日で人間は改造されるよ。最初は理にかなわない事を疑問に思ったりするが、過酷な訓練の中でそれに従って生きていくしかない場に放り込まれ、威圧感、恐怖心で人間性は破壊される、自殺も多かった。戦わずして飢え死にが多かった。

3日の食糧しか渡されず、あとは現地調達、飢える

か原住民から強奪するしかない。

迎えに来るからと、病気の戦友を置き去りにして出発する苦しさ、

戦後、帰還船での出来事など、忘れられない話です。

また、来館者の中には300人以上の隊で帰還できたのは11人、フィリピンで米軍に捕らわれた時、病気の自分たちへ点滴が行われ命をつないだ。医療の差に接してこれでは勝てないと思った…と話される方もいらっしゃいました。

開館時には、展示物の写真は自分の若い時のだから欲しいという申し出もありました。

〈ピースあいちは自分の学校〉

社会で活躍して、第一線をひかれた方が多いだけに、多彩な顔ぶれから、いろいろ裏話が聞けたこと、介護の悩み、教育、結婚相談まで話ができる友達もできたこと。

ボランティア学習係が企画してくれるタイムリーな学習会、イベント班、広報班の豊富な活動、それが強制でなく自由な活動の雰囲気गतのしく、年を忘れて学んでいます。皆様の日頃の活動に改めて感謝します。

(Vol. 32)

6月からボランティアしています

岡田 順二

今年(注:昨年)のゴールデンウィークに、妻と2人で「ピースあいち」を初めて訪れました。何かお手伝いできることはないかと、6月からボランティアをさせていただいております。

驚いたことは、100人規模のボランティアが活動されていることと、夏の入館者の多さです。夏休みの時期は、受付で一日に120人を超す入館者数を体験しました。

また、来館者アンケートがたくさん寄せられ、その方々の宛名入力の一部をお手伝いさせていただきましたが、冬の企画案内の発送に活用してくださり、さっそく苦勞が報われて嬉しく思いました。平和のために

集まっていられる皆さんは、温かく聡明で、私のような新参者も気持ちよく活動できることに感謝しております。

また、今年は開館5周年を記念してブックレットが続々と発行されており、私も購入して知人にプレゼントしたところ、年配の方から名古屋空襲の記憶を聞かせていただくなど、貴重な体験ができました。

ふだん何かと忙しく、映画鑑賞会や戦跡見学などにも参加させていただきたいと思いつつ、これまでのところなかなかかきません。あと十年ほど理学療法士として働く予定ですが、ボランティアはさらに長く続けたいと考えております。(Vol. 37)

折り鶴コーナーでひとときを

東野 裕子



2階の展示室の出口付近に折り鶴コーナーがあります。女子大生に「すみません!鶴の折り方がわからないのです。教えてもらえませんか。」と声をかけられました。鶴の折り方の展示を見ながら、二人でゆっくり鶴を折りました。ここで折られた鶴はヒロシマの平和記念公園の原爆の碑に捧げられます。

“千羽づる”といえは、ヒロシマの少女佐々木禎子さんを思い出しますね。『千羽づるのねがい』(山下夕美子/小学館)、『飛べ!千羽づる』(手島悠介/講談社)などの本も有名です。禎子さんのブロンズ像の写真も展示されています。この写真を見た方はヒロシマまで足を運びたくなるかもしれませんね。ヒロシマまで行けない人も、この場所に立ち寄ると広島原爆ドームの鉄製模型を見て、平和への思いを感じることができる

でしょう。佐々木禎子さんは昭和18(1943)年1月7日生まれ、今生きていればまもなく70歳のおばあちゃんです。ヒロシマ生まれで2歳の時被曝し、その放射能の影響で白血病になり、昭和30年、12歳でなくなりました。

鶴を折りながら禎子さんのこと、生命、平和、心、思いやり…と考えるのも素敵な時間だと思います。すぐ近くの戦時下の暮らしを再現したコーナーからコチコチと時計が語りかけてくれます。

「ピースあいち」の折り鶴コーナーで、ひとときをお過ごしください。心の豊かさについて思い、生かされている今の自分に感謝して自然に平和を願う気持ちが出てくるような、そんな気がします。(Vol. 37)

ボランティアの喜び

水谷 洋一

「ピースあいち」の建物が自宅の近くにできてから、ずっと訪れたい気持ちは持っていました。戦争とか歴史に興味があったからです。亡き父が戦争体験の話をお私によくしてくれました。伯父がバシー海峡で魚雷撃沈され戦死した話。叔父がガダルカナルからラバウルに退却して終戦を迎えて帰還した話もです。

成長しながら、歴史や戦記物の本を読んだり、戦争体験者の話を聞くにつれて当時の世界の情勢・戦争の実態がわかってきて、父の家族が如何に無謀な戦争に翻弄されていたのかを知ることができました。当時のすべての日本人が明治からの歴史の必然性

の中で、ちょうど破滅の時期を大東亜戦争の形で迎えてしまったと思います。

戦争ほど人類を破滅させるものはありませんので、この悲惨な歴史を再び繰り返さないためにも、戦争の愚かさ・悲惨さを訴え続け、平和の尊さを発信している「ピースあいち」で活動できることは、ボランティアとして非常に生きがいのあることです。

行動力の旺盛な多くの人々と共に行動ができ、映像を見たり、読書で戦争について学ぶことができるのも私にとって大きな喜びです。(Vol. 14)

2012年度「語り手の会」の活動、5,000人を超える聴衆

「ピースあいち語り手の会」の活動も4年目に入り、三つの柱の取り組みとして定着してきました。

1. 平和学習支援事業

戦争に関する資料館調査会(愛知県・名古屋市で設置)から受託して、愛知県下の小中学校を巡る事業で、本年度は新城市、稲沢市、知多郡東浦町など14校で実施しました。小学校11校、中学校3校で、1,299人の児童らが聞いてくれました。

2. 夏の戦争体験を語るシリーズ

2012年の夏は8月1日から15日までの間に10回開催しました。聴衆は全体で335人に上りました。

3. その他の語り活動

上記のほか、東海地区の小中学校や各種団体からの要請に応じて語り手を派遣したり、ピースあいちを訪れた学校・団体に対して戦争体験を語る活動を行いました。聞き手は3,800人を超えました。

本年度の特徴

- ①日進市からの依頼により市内の小中学校11校のうち、10校へ語り手を派遣しました。参加児童数は1,700人余に上りました。また、県立日進西高校でも



長崎原爆の体験者・仲直敏さんの語り継ぎシナリオをもとに、映像や紙芝居を使いながら語りをする。

実施しました。この結果、これまでの年間3,000人余りの聴衆が一気に5,000人を超えました。

- ②戦争体験をシナリオ化し、若い世代が語り継ぐ取り組みに着手しました。語り手の会の会員は当初80人を超えていましたが、亡くなられたり体調をくずされたりして、実際に活動できる人は40人余りまでに減少しています。戦争体験を若い世代に語り継ぐことは緊急の課題です。現在、5本のシナリオを完成させました。

戦争体験を聞いた子どもたちの一口感想文

- ・1時間じっくり戦争についてお話していただき、たくさんのお話を学ぶことができました。日本の未来はぼくたちにまかせてください!!(小学6年男子)
- ・戦争はとても悲しく、とても怖いものだと分かりました。この戦争のお話を私たちは受けつぎ、伝えていかなくてはいけないのだと強く思いました。(中学2年女子)
- ・今の社会で人を殺すと犯罪になります。でも戦争中は、人を殺すことが正しくて簡単に命をうばいます。私はこのことを、大人になってもきちんと子供に伝えていきたいと思えます。(小学6年女子)
- ・戦争というもの大変さや犠牲になった人のことなど、いろいろなことが分かりました。絶対に戦争を起こさないように努力したいです。(小学6年男子)
- ・今日は戦争体験のお話、ありがとうございます。さまざまな過去を知ることができました。私は今日学んだことを次にいかし、こんどは私が戦争のおそろしさを伝えていきたいと思っています。こん後も



生徒たちの前での語り風景

- ぜひお元気で活動をなさってください。(小学6年女子)
- ・こんなに、戦争が悲しいとは思っていませんでした。ぼくは一回だけですが、長崎の原爆資料館にいったことがあるので、戦争のこわさをちょっと知っています。(小学6年男子)
- ・今日学んだことを今後の生活や勉強に活用したいと思えます。(小学6年男子)

銃のない社会の実現を願って

—服部剛丈君事件から20年・ご両親を迎えて—

2012年12月1日(土)、故剛丈君のご両親服部政一さん美恵子さんをお招きして、この事件をテーマにした米国映画『世界に轟いた銃声』の上映会と、事件から20年目のルイジアナ州パトンルーージュで行われた追悼式典の報告を服部さんに伺いました。

20年前、日本中に衝撃を与えた事件後、服部さんは米国に銃規制を求める運動を続けてこられ、また、基金を設立して、銃のない社会を学んでほしいとの思いで米国からの留学生を受け入れてこられました。会場を一杯に埋め尽くした参加者の前で、留学生イボンヌ・バナジーさんは「アメリカではあまりにも簡単に銃が手に入ってしまう。銃犯罪の阻止には一人ひとりの努力が必要」と、胸に響く日本語のスピーチをしてくれました。

多くの参加者と共に、銃のない平和、非暴力の社会の実現を考える機会となりました。



東海交流会活動報告

2012年12月16日「第28回戦災・空襲記録づくり東海交流会」が開かれました。7県20団体50人が参加しました。主な報告は、「『桑名の戦争遺跡』の出版」、「見晴台遺跡から出土したB-29機体と高射砲陣地跡」などがありました。



名古屋空襲「追悼の夕べ」

2013年3月17日(日)、「名古屋空襲から68年～犠牲者追悼の夕べ」を開催しました。「三菱重工業大幸工場への爆撃写真—そのとき地上では」と題して、ボランティアの桐山五郎さんのお話を聞き、その後、ボランティア手づくりのペットボトル灯火に囲まれた平和地蔵前で、建昌寺の敦賀住職による追悼法要を行いました。



賑わった年末祭



2012年12月9日の日曜日は、「ピースあいち」の年末祭でした。11時、玄関前では、餅つきがはじまりました。開催中の展示『戦争と子どもたちの暮らし』にちなみ、「子ども講座」や竹馬、けん玉など昔の子どもたちの遊び場も。3階・子ども展の一角では野山の木の実で作るリースが大人気。指導いただいた小栗敬二さんが野山で集めた70種類以上の木の実や花を前に「どれで飾ろうか」…。午後2時から、ソプラノ歌手の水野寿子さんと熊谷幸祐さんのピアノ演奏による『歌紙芝居—ぞうれっしゃがやってきた』。水野さんが描いた紙芝居と歌とお話。「ピースあいち」オリジナルバージョンでした。後半は楽しいクリスマスソング。白い妖精のような水野さんの歌声に、子どもたちは目を輝かせていました。とてもピースフルなコンサートでした。

資料館探訪 7

幻の大本営—松代大本営跡

太平洋戦争末期、日本の形勢が不利になると、陸軍は本土決戦のために、長野県松代町(現長野市)に国家機能を移す計画を建て、三つの山中に地下壕の建設を始めた。

1944年11月から工事が始まった。今のように重機が無いから人海戦術で行われた。合計延べ61万余の人たち(そのうち延べ25万人は朝鮮の人たち)が動員された。1945年8月15日の敗戦をもって、工事は中止されるが、75%ができ上がっていた。

舞鶴山には仮御所と地下壕が造られた。現在は気象庁精密地震観測室として利用されているが、一部は見学できる。象山(ぞうざん)地下壕は500mほど開放されて見学することができる。象山地下壕の側に朝鮮人慰安婦の記録を展示した「もう一つの歴史館・松代」もある。一度は行く価値がある所だ。(N)



松代象山地下壕俯瞰図

今年もやってきた6年生 —2012年度の団体来館—

2012年度の来館団体数は30、大人177名、子ども686名でした。残念ながら昨年度より大幅に減りましたが、2008年以来、毎年来館している豊田市立石畳小の6年生は今年もやってきました。1時間半以上かけてバス、リノモ、地下鉄を乗り継いできた40名の子どもたちは、午前中、戦争体験者の話を聞いた後、常設展示室でガイドの説明を受けました。おにぎりやランチを済ませた午後からは「ぞう列車がやってきた」のDVDを熱心に鑑賞し、フリータイムでは積極的に質問していたのが印象的でした。感想文には「あらためて戦争のつらさや今の平和を感じることができた」と書いた子が多くいて、子どもたちにも「ピースあいち」にも、良い日になりました。



密度の濃い活動 —ボランティア班

ボランティア班の主な活動は、次の5つです。①年4回の「勉強会」(「展示ガイド研修講座」を含む)②「防災訓練」③「名東ボランティア展」への参加④「ボランティア全体会」⑤「ボランティア日誌」よりの情報集約と報告。



今年度の「勉強会」の内容は、「被災地南相馬訪問と3・11福島県民集会」の報告、リニューアルした展示『現代の戦争と平和』の解説、「世界の平和思想」や「愛知の戦跡」についての講義など、非常に今日的なものでした。

月一回の発行で「ピースあいち」の活動がタイムリーにわかる「ピースあいち・メールマガジン(無料)」。「ピースあいち」のホームページからお申し込みください!

ピースあいちの運営を支えてください。

入館者数は、2013年3月末で6,095人(内子ども1,322人)で、開館以来の累計では38,964人(内子ども8,810人)となっています。

当館の維持・運営は、入館料とNPO会員[正会員・賛助会員]の会費及び寄付金によって支えられています。是非、会員登録して「ピースあいち」を支えて下さい。

正会員(年6,000円)は会員証提示で無料入館できます。賛助会員(年3,000円)には無料入館券一枚をお渡ししています。

また、団体・法人には、「支援団体」(年/一口1万円)として登録をお願いしています。その外、寄付も受付けています。「ピースあいち」への寄付は、確定申告で約50%が税額控除の対象となります。

【ピースあいちの利用案内】

- 開館日 火曜日～土曜日
- 開館時間 午前11時～午後4時
- 休館日 日曜日・月曜日・年末年始
- 閲覧料 大人 300円 小中高生 100円
- 2階の常設展示室のほか、1階には「現代の戦争と平和」というテーマの常設展示、3階には「戦争と動物たち」の展示があります。1階には戦争に関する図書や戦争体験談のDVDライブラリーがあります。1階のみの利用は入館料は無料です。
- 学校や団体の見学で、展示ガイドや体験談を希望される場合は、事前にご相談下さい。
- 駐車場は2台分あります(300円)。他に障がい者用が1台分あります(無料)。

「ピースあいち」への交通のご案内



●編集後記●

このところ、戦時遺品の寄贈が相次いでいる。どうも世代交代のようだ。先の戦争を身をもって体験している方にとっては思い出の品であろうが、遺族にとってはさほどの思いはないようだ。さりどて捨てるわけにもまいらず、「ピースあいち」にでも相談してみるかということになるようだ。そうだとすれば、当館の知名度が高まったことなので嬉しい限りである。

こうした品々は、いずれも貴重なものばかりである。かつては持ち主とともに過酷な時代を生き抜いたのだ。これらは、まさに歴史の証言者である。これからの時代を背負う若い世代にとっては、平和のありがたさを教えてくれる教師である。(S)